平成28年度 学校法人　産業技術学園　北海道ハイテクノロジー専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日　：　平成28年7月8日　　10時～12時

評価委員　：　佐藤忠寿　野清美　大場真哉　奥山恒夫　早坂貴敏(欠席)　足立晋（欠席）

平成27年度自己点検自己評価（平成27年4月1日～平成28年3月31日）による

【理念・運営目標】	北海道ハイテクノロジー専門学校は、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、4つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。また職業教育の中心機関として、新たな知識・技術・人間性を創造し伝承・発展させ、人材を育成することを通じて社会の進歩と社会の発展に貢献するという使命をもっている。北海道内において「道内最大の総合専門学校として、強い教育、強い就職で学生、業界の夢をかなえ、コア人材を養成し業界に輩出する『道内No.1の職業人教育機関』を目指し、少子高齢化社会の進行や東南アジア地域からの留学生の増加を大きな社会背景と捉え、その変化の中で業界が必要とする新たな人材像を明確化してカリキュラムに反映させグローバルな人材育成に尽力することを目的とします。
【組織目的】	北海道ハイテクノロジー専門学校は 北海道の産業界とコラボレーションした『産学官協同教育』で、道内の各産業界で活躍するリーダーシップを発揮できる人材を養成し、地域創生に貢献する。 年度ごとに『産学官協同教育』の質向上を図り、道内の第一専門職への就職率90%の継続・離職率0%を達成することで、ハイテクブランドを確立する。
【運営方針】	『産学官協同教育』の質向上を図り、ハイテクブランド確立 1. 教育のイノベーション＝産学官協同教育の進化を図る。 2. 学校の価値を共感してもらえる広報展開を完成させる。 3. 一人ひとりの学生の可能性を最大限に開花させる教育プログラムを確立する。

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
1　教育理念・目的・育成人材像	学園パンフ	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	学園の理念・目的・育成人材像を明確に定め、専門職業人教育を通じて社会に貢献する。業界に直結した専門学校として業界と連携して人材を養成する。	地域創生と学びを繋げる産学官協同教育を目指し、地域とともに学生を育成できる環境づくりを行う。	3.0	3.0	明確な理念があり、大変すばらしい。 学園の理念、目的、育成人材等、質の向上を図って欲しい。業界に直結した専門学校の取組として、企業、自治体との関係連携を深めることで学生の可能性が広がると思う。	産学官･連携教育の進化と拡大による学生満足度の向上を図る。
		1-2 学校の特色は何か	『産学官協同教育』の質向上を図り、教育のイノベーションによる産学官協同教育の再構築と学校の価値を高め一人ひとりの学生の可能性を最大限に開花させる教育プログラムを持つ教育施設である。		3.0	3.0		
		1-3 学校の将来構想を抱いているか	産学官協同教育を進化させ、道内企業連携先・恵庭市等の自治体との関係強化を図り、市場調査を教育に反映させ、リーダー育成プログラムを展開してきた。		3.0	3.0		
2　学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月2回の学校運営会議、広報戦略会議、学校全体会議及び学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し、実行する。次年度より新たな5ヶ年に入るので、将来構想を見据え、今年度の自己点検をしっかり行いたい。	事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。計画遂行の確認のため、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。	3.0	3.0		学校運営の「見える化」を内外ともに推し進める。
		2-5 事業計画は定められているか	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとのリーダーも部署別事業計画と予算案を作成しスタッフ全員で共有する。 現在では特に校舎の老朽化や施設整備が必要なため、計画的な収支計画・事業計画を作成し、毎年段階的に設備投資ができるよう、学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。		3.0	3.0		
	事業計画（意思決定システム）	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校運営に関する意思決定機能は毎月2回実施される運営会議が担っている。広報・教務・就職・事務局の責任者で構成された会議メンバーで、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。目標志向性の高い組織運営が行われており、組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。		2.8	3.0		
	就業規則	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	人材育成のための研修は、滋慶EAST本部人事センターが計画し教職員の教育に力を入れている。　採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。教職員は目標設定と目標達成度が見える化できる目標管理シートを作成することで、成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。職場満足度の高い職場環境作りをしている。		2.9	2.8		
	事業計画（意思決定システム）	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた運営方針・事業計画を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・広報戦略会議等）で行い、全教職員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校･学科の教育成果に繋がっていると考えている。		2.9	2.8		
	AS400 サイボウズシステム	2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ（学生・卒業生・教職員・広報・財務など）はAS400で一元管理されている。また、教職員個人の情報交換もサイボーズによる学内コミュニケーションシステムや掲示板、稟議、出張、外勤システム等を構築し管理している。		3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
3　教育活動	教育指導要綱	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界の人材ニーズを反映したカリキュラム改正を実施することにより、方向付けを行っている。カリキュラムを修得するための活動として、学生のメタ認知力を鍛えるプログラムを構築し、授業内容のイノベーションのためにFD活動を活発化するよう活動した。	協同研究施設・協力企業・自治体との連携をさらに強化する。また、高専一貫した人材養成にも着手する。 国家試験合格率が全国平均を下回る学科は、抜本的な改革が必要である。	3.0	3.0	大変良い教育をされている。 前年度の医療系国家試験合格率が落ち込んだ学科もありましたが、それに対しすぐに対策を立案し行動していることに期待が持てる。授業に関しては学科教員と講師間での連携による具体的打ち合わせが必要。 授業評価に新たな課題設定が必要。授業の質のさらなる改善のため、研修等の機会を増やすことが必要ではないかと思う。 一部ではあるが資格試験の合格率が全国平均を下回る状況は、学生募集にも大きく影響することから、受験対策の再構築が必要と思われる。	産業界、地域行政との連携をより強化し、「地域課題」に対して課題解決案を提案出来る人材養成を継続していく。
		3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、各学科の養成目的と教育目標を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確に設定し、教育活動を実践している。教育成果については進級判定会議や卒業判定会議で到達レベルの確認が行われている。		3.0	3.0		
		3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	カリキュラムは「適性を見つけ目的意識を育てるプログラム」、「プロに必要な態度・思考・倫理とそれらの基本となる知識を身につけるプログラム」、「専門的な技術・知識を身につけるプログラム」の3種類により体系的に構成されている。また、定められた卒業時のゴール（目標）に向けて、科目間の連携を図るようカリキュラムを作成している。		3.0	3.0		
	教育指導要綱	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	各科目は科目間の連携を図るよう、かつ、学生の習熟度に適合するようカリキュラムの中に適正な位置づけをしている。		3.0	3.0		
	教育指導要綱	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	目標設定、実践、評価のプロセスからキャリア教育の推進を図るため、産学官協同教育のプログラムを導入し、①実施研究②地域提案研究③未来創造型研究の3つに分け、それぞれのプロジェクト化を推進した。ハイテク産学官協同教育推進部を設置し、協同研究・開発が出きる企業・施設先を増やす活動を行った。		2.9	2.8		
	授業調査/アンケート	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	FDCを中心とした授業アンケートにより、学生の評価を教員、講師にフィードバックし、常に授業の改善を図っている。また、公開授業により、教員自ら授業改善の気付きを促す体制となっている。		2.8	2.8		
	教育指導要綱	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	各専門分野の教員確保に尽力し組織として教育ができるように配慮している。講師会議などで、教員と講師の連携により協力体制を構築している。		3.0	2.7		
	キャリアサポートハンドブック	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3年未満の教員を対象に毎月1回公開授業を開催し、授業のイノベーションを図るとともに、年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。		3.0	3.0		
	教育指導要綱	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は学則、細則に示されているとおり明確である。また、評価の方法に関しても、シラバスに記載し、学生に公開している。		3.0	3.0		
	資格取得一覧表	3-19 資格取得の指導体制はあるか	卒業試験が認定されない学生や、国家資格が残念な結果となった学生が就職希望から外れる傾向がある。国家資格受験のための対策を強化し学校全体を上げて国家試験対策及び就職支援を考えることが必要かと思料する。		2.7	2.7		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
4 教育成果	就職資料/学校案内	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	「地域創生」や「産学官連携」推進の集大成として、一人ひとりを大切にした就職支援を継続し、就職希望学生全員が就職先を勝ち取ることのできるサポート行った。	各種認定資格や国家試験不合格者に対して支援を継続する。 「退学させない」ではなく、誰もやめない学校、退学したいと言い出さない学校を目指す。また、転科転校を出さないようにする。そのために、入学前から保護者、また、高校側の考え方も変化していることから高校との連携をさらに強化する。	2.6	2.5	退学等については高校側としても責任を感じている。 他の専門学校に比較し、DO0.9%という低い数値を維持している。 各種認定資格、国家試験法合格者へのサポート、支援等保護者の立場からとても良いと感じた。 本人、保護者、学校関係者評価委員による話し合いが不可欠なのはもとより、本人、保護者間の話し合いが何より大切かと感じさせられた。 各種資格試験の不合格者に対する支援については大いに評価できる。	教育成果をより向上させるために、自ら好奇心をもって積極的に学ぶアクティーブラーニングの導入を図る。
	資格取得一覧表	4-21 資格取得率の向上が図られているか	毎年、前年の振り返りとともに、医療系学科では、時期ごとの目標設定、医療系以外の学科では、各検定試験ごとの目標合格率設定を行っている。目標達成に向けて、状況に応じ、正課外の補習、個別対応をおこなっている。医療系国試対策委員会にて、学科間の成功事例を共有し、問題点を検討する体制が整っている。入学時、プレイスメントテストにより、低学力者の早期発見と早期からのサポートを実施している。医療系国家資格の取得については3学科が全員合格（100%）を達成したが、他学科の合格率は例年よりも低下した。		2.3	2.5		
	事業計画DO率	4-22 退学率の低減が図られているか	退学率については、目標を達成している。転科転校を防ぐことはできていないが、本人の新たなキャリアプランを応援すべく、見届けている。 産学官協同教育について、一部の学科ではあるが実績を残し、恵庭市との包括連携協定に繋がることができた。 DO（11名）　休学（7名）		2.8	2.7		
	学校案内より卒業生紹介	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りに、卒業生の就職先訪問を積極的に実施しているが、研究、受賞、活躍の状況把握にまでは至っていない。		2.6	2.3		
5 学生支援	キャリアセンター資料	5-24 就職に関する体制は整備されているか	滋慶学園グループのスケールメリットを生かし、各校間で同じ分野の求人を共有し、学生にとって多くの求人情報を得ることができる。 またキャリアセンターは常時各業界に訪問し、求める人材や業界動向などを察知し学校にフィードバックする体制を取っている。	学生の就職活動状況は、常にキャリアセンターが集約し情報のデータ化に努めている。 求人情報においても、各学科ごとに求人情報をリスト化し学生に公開している。 経済面の指導に関して教職員の更なる理解が必要であり、返還に関する意識指導体制が必要である。	2.6	2.6	支援体制が充実している。 同窓会に関して活動している学科がまだ少ない。 卒業生を集めて活性化して欲しい。	一人ひとりの学生状況に応じた事業、学費等の支援体制を更に強化する。また奨学金返還の意識付け教育も強化する。
	キャリアサポーとハンドブック	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	カウンセラー（臨床心理士）が勤務するSSC（Student Survice Center）が整備されている。教職員全員が、カウンセリング、コーチング技術の研修を受ける機会を持ち、学生支援を行い、部署間の連携により体制を確保している。		2.8	2.8		
	ファイナンシャルアドバイス資料/学生募集要項	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	経済的側面の支援は整備されている。サポートスタッフとしてファイナンシャルアドバイザーによる学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りをアドバイスできている。		2.8	2.8		
	各保護者会資料	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	健康診断をはじめとして学校保健法に規定するコンプライアンスは遵守しており、特に医療法人慶心会による健康管理体制により再検査が実施されている。		2.9	3.0		
	学生便覧（学友会）	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	学友会規約のもと、学生主体の行事の主担当となる学友会と、20種以上の部、同好会が活発に活動している。学校として、学友会活動、部活動をキャリア教育の一環として、位置付けている。ほぼ全教職員が顧問としてかかわるなど、万全の支援体制を整備している。		2.9	2.8		
	学生寮紹介パンフ	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟を有しており、地方からの学生にも対応できる体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。今年度、黄金地区の男女共有寮を閉鎖し、新たに男女共有寮を平成28年度に恵み野駅隣接に建設予定である。		3.0	2.8		
	各保護者会資料	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科での保護者会は入学前に1回、入学後各学科学年ごとで随時、開催をしている。保護者説明会による学習面、就職面、国家試験、海外研修等の報告を実施の他、個別保護者相談により各々の問題解決にあたっている。		2.9	3.0		
	各卒後セミナー/勉強会	5-31 卒業生への支援体制はあるか	本校では学校全体としての同窓会を組織しており、卒業生間の交流や卒後教育活動も同時に行われている。しかし、活動状況には学科間での差があることは否めない。また卒業生の再就職支援システムはあるが、同窓会名簿の更新・変更についての体制が構築されていない。		2.8	2.5		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
6　教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが必要不可欠である。老朽化した実習室、実習資機材は優先順位の高いものから計画を立てて整備または新規購入する。	海外研修の意義を見直した上で、各学科で共通してできる海外研修をプログラムを検討していく。国際教育の一環としての研修の意味を広義でとらえ、海外の大学や企業との協同研究等も考える必要がある。	2.7	2.8	とてもよく整備されている。 海外研修の費用面での負担が大きいところは問題。現在の海外情勢も不安定渡航にも注意が必要であり、負担が少なく安全な研修が実現できるように検討して欲しい。 海外研修の意義はあると思うが、保護者としては、費用問題について課題であると思う。 平成26年度より自己評価が下がっているのであれば、重点目標を掲げ改善を目指すべきではないかと思う。	グル―バル人材育成のための教育環境の開発を継続していく。
	海外研修資料	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習については、充分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。海外研修は、学科により最低遂行人数に到達せず昨年度は2学科のみの実施となった。今後は海外研修の在り方を検討するとともに、学科間で合同研修できるようなプログラム等も視野に入れた計画を考える必要がある。		2.5	2.2		
	教育指導要綱	6-34 防災に対する体制は整備されているか	防災については防火管理者をはじめとして環境安全衛生管理者、衛生管理者、環境管理者、安全管理者による管理体制を敷いている。年に1度消防本部、環境整備関連会社による防災訓練を実施。防災教育にも力を入れている。また学生、教職員ともに災害時の安否確認システムを各校で有し訓練を行っている。防災、火災についてはその意識を高めることから訓練を実施し避難手順や方法を指示し実施している。また学生、教職員、講師へ・防災訓練の映像化（DVD）等も実施しており、防災の意識を高めている。 AEDは設置しており、定期的な救急時における知識の習得と意識付け研修も行っている。		3.0	3.0		
7 学生の募集と受け入れ	学校案内より確認	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は8月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項の内容を広くWEB上でも公開し、適正な募集活動を行った。	スマートフォンなどの普及により、学校情報を気軽にかつ、どこでも検索することができる昨今、WEBでの学校情報をいかに受験生に伝えるかが課題。高校生、保護者、高校教員など対象に合わせた情報を提供していきたい。 産学官協同教育について、実績が入学者増に結びついていない。 いかに見える化し、産学官協同教育の発展のために、業界との連携先を増やし、実績をPRしなければならない。	2.4	2.3	本校においては知名度は高いと感じている。 WEB上の各学科のPRはわかり易くよい。 様々な情報提供の努力がされているが、実績が成果に結びついていないとの評価がある。入学者が最終的に入学を決断するときに何を根拠にしているのかアンケート調査をしてみることも必要ではないか。	受験生にわかり易く学校の教育内容と実績を今以上に見える化する。特にWEB（スマートフォン、パソコン）での発信を強化する。また、高等学校への訪問も強化していく。
	学校案内より確認	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	学校案内だけではなく、各ツールを使用し、進学相談会やオープンキャンパスで教育の成果を伝えている。本校のWEBでも学科ごとの授業の様子や教育の成果をリアルタイムで伝えられるよう創意工夫を行っている。特に近隣（恵庭・千歳・北広島・苫小牧・追分・長沼地区）16高校との関係が再構築された。		2.4	2.3		
	教育指導要綱/学校案内	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委員会を設け入学試験の判定会議を適正かつ公平な基準のもとに実施している。		3.0	2.7		
	学生募集要項	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。学納金の納付率アップに重点を置かなければならなかったが、目標の納付率には至らなかった。		2.7	2.8		
8.財務	財務資料 （口頭説明）	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収入と支出のバランスはとれており、貸借対照表の翌年度繰越収入超過金はない。設備投資も計画的に行われており負債における問題はない。	校舎の老朽化に伴い、計画的な施設設備投資が必要。	2.9	3.0	適正であると思う。	継続的に計画的な環境の補修及び改修をすすめていく。
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	校舎の老朽化や施設整備が必要なため、計画的な収支計画・事業計画を作成し、毎年段階的に設備投資ができるよう、学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努めるには支出を削減するだけではなく学納金の回収率アップに重点を置かなければならなかったが、目標の回収率には至らなかった。		2.8	3.0		
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	理事会において寄附行為内容を常に精査し監事による監査と外部の監査法人である公認会計士の監査を行っている。		3.0	3.0		
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し「財務情報公開規程」により管理、運営を行っている。		3.0	3.0		
9.法令等の遵守	組織図より説明	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りにより、教職員の法令遵守や設置基準の遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。また監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。本年度精神保健福祉士受験認定における再申請を実施した。	環境の変化が大きいことから、通知、告示や制度変更等常に情報を意識した運用体制を構築する必要がある。 今後、第三者評価機構による評価にも取り組む準備をする。	2.7	3.0	問題点は特にない。	自己点検・自己評価⇒学校関係者評価委員会での評価システムを継続し、課題に対してPDCAサイクルをしっかりと廻していく。
	ITリテラシー資料	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護のについての教職員への啓蒙と、その運営体制の整備に力を入れるための研修計画を策定した。 講師会議等を通じ、内部教職員のみならず外部講師にも個人情報保護管理状況や個人情報保護の研修のについて実施した。		3.0	3.0		
	本会資料	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、自己点検・自己評価ついての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施している。今後の新たな高等教育機関の制度化に関しての取り組みと準備を行う。		3.0	3.0		
	HP確認	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	今年より、自己点検・自己評価を実施していく。HPによる公開は既に実施している。自己点検自己評価結果をもとに重点課題について学校関係者評価委員と学校づくりの検討を行い更なる評価の向上に努めている。		3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
10.社会貢献	各種ボランティア紹介	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	地域の特産物について、成分分析および健康などを考慮した食品開発および、地域医療に貢献する人材育成のために企業と連携しおもてなし講座の新設をしている。	引き続き：地域で学び・地域で働き・地域の貢献できる人材育成のための地域に根ざした地域ブランドの創生および地域貢献と学びを繋げていき、地域とともに成長していく学生教育をしていく。	3.0	3.0	今後も期待している。 恵庭及び近隣町内で連携しているこはとても良い。	地域企業、行政との連携強化を更に図り、継続に社会貢献に寄与できるようにする。
	各種ボランティア紹介	10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア活動については、授業の一環として取り組むもの、課外活動として自ら取り組むもの等があり、多くの活動を通じて積極的に社会貢献している。		3.0	3.0		
11　国際交流	海外研修・留学状況紹介と課題説明	11-49 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	近年渡航費用の捻出が困難な学生が多いこともあり、海外研修そのものの意義を見直すことが必要である。日本語学科を中心とした国際交流を今後も継続していきたい。	本学園の理念である国際教育の意味を広義でとらえ、海外の大学や企業との協同研究等も考える必要がある。	2.7	2.5	海外研修の渡航費用等の問題について学校側で一部負担等出来ないか検討をお願いしたい。	グローバル人材育成のための教育環境の開発を継続する。
					2.9	**2.8**	学生さんの地域の行事への参加等も含めて地域（特に恵庭市）の企業との関係をより深いものにしてほしい。 医療関係職種はどんどん高学歴化の方向に進んでいることから、貴校も各職種に合った学歴を修められるよう検討願いたい。	